

取り組むテーマ

Environment

環境

廃棄物処理は地元根付いてこそその産業

リサイクルで地域企業と環境保全を

日本ダストは、「廃棄物に新しい命を」というテーマを掲げ、産業廃棄物に新たな付加価値を生み出すリサイクルに取り組んでいます。

#03

企業事例

日本ダスト株式会社

- 創業:1970年9月
- 神奈川県川崎市川崎区鋼管通2-2-2
- 事業内容:産業廃棄物中間処理業／
コンテナシステムによる産業廃棄物収集運搬処分／
バキュームダンパー及びローリーによる
廃液収集運搬処理／プラント解体工事、清掃工事／
資源リサイクル事業
(貴金属、金属、溶剤、油、プラスチック、紙、木)
- 代表取締役:吉野建介
- 従業員数:110名



営業本部長 吉野治郎さま

リサイクル事業から生まれた
ソリューション・ネットワーク

私たちはNDKグループ全体で、産業廃棄物の収集運搬・処理、資源物の買取・売却などの事業を行っています。取引先の企業は、川崎を中心とした神奈川県内、首都圏・関東エリアに及び、製造工場の他には物流拠点や研究所、商社などがあります。

創業以来、一貫してお客さまの廃棄物に関する困り事の解決に取り組んできました。今年で創業55年になりますが、当初はゴミの捨て場に困っている、どう捨てていいかわからないという企業のニーズを受けて、産業廃棄物を安全に処理する事業からスタートしました。

その後、公害の問題が深刻になる中で、廃棄物処理の現場でも環境負荷を軽減し、リサイクルしようという風潮が高まってきました。そこで掲げたのが「廃棄物に新しい命を」というスローガンです。廃棄物を無駄にせず、リサ

イクルによって生まれ変わることで、環境保全に貢献することをテーマに取り組んできました。

リサイクル事業の流れとしては、製造工場から出る混合廃棄物を回収し、それを分別する作業から請け負っています。プラスチック、金属、木やガラスなどが混ざった状態で引き取って、重機で選別した後、さらに人の手で細かく選別してから破碎する。そうして破碎処理したものを、リサイクル・ルートに乗せるという流れになります。

プラスチックは原料に戻して、新たな製品の材料とすることや、熱で圧縮して、固形燃料にするなど、さまざまなリサイクルの方法があります。自社の処理工場では、これらのリサイクル



木やプラスチック、紙、金属、ガラス、ゴムなどの混合廃棄物は重機で選別し、その後の細かい選別は手作業で実施

につなぐまでの中間処理を一括して行っています。

また、自社のリサイクル事業の強みは、「ソリューション・ネットワーク」にあると思っています。お客さまの工場から出る廃棄物には、プラスチック以外にも有害物質、危険物、化学物質、レアメタルなど多様な種類があります。私たちは専門のリサイクル施設とのネットワークがあるので、お客さまのご要望に沿った技術を持った別企業へとつなぐ、いわば商社的な業務も行っています。企業が抱えるいかなる課題や悩みも解決できるように、ネットワークやノウハウの確立を大事にしています。

緑の下の力持ちから
SDGsの取組でイメージアップ

廃棄物のリサイクル事業を通して、CO₂削減、エネルギー使用の削減など、環境保全に貢献することに、長年にわたって取り組んできました。一方で、

私たちの業界は縁の下の力持ちとしての役割が大きかったため、そうした取組についてはあまり一般的には知られていませんでした。

それが、3年ほど前から、「SDGs」というキーワードが出てきて、徐々に注目されるようになってきました。これからは私たちがやってきたことを外部に発信しなければもったいない。そこに価値があるはずだと気づきました。そこで、『かわさきSDGsゴールドパートナー』に申請し、認証されたところ、川崎市内の学校から環境授業の依頼を受けたり、川崎ブレイブサンダースが主宰するSDGsのイベントに参加したりするようになりました。

子どもたちは学校でSDGsの授業を受けているので、大人よりSDGsについてよく知っていると感じています。例えば、「お菓子の袋がリサイクルできるか、できないか」というクイズを出し、きちんと分別するとプラスチックのボードなどに再生されることを教えると、「じゃあ、今日から分別しよう」「お父さん、お母さんに言わなきゃ！」と反応が早く、身近な問題として感じてもらえることを実感します。

また、こうした取組をメルマガやブログで配信すると、取引先の企業が見てくださり、自社のイメージアップや信頼感の向上など、ブランディングとしての効果が大きいと感じています。実際に、同業者と情報交換する中でビジネスにつながることや、自社のホームページを見た大手メーカーからご連絡をいただくこともありました。



お客様に付加価値を感じていただく
リサイクルを提案する

併せて、社内でも従業員のエンゲージメントが高まっているように感じます。普段の廃棄物処理の業務からは、自身の仕事が社会貢献につながっているか実感しづらいですが、SDGsの取組が地域や社会の役に立っていることがわかると、従業員にとっても仕事への愛着心や誇りにつながっているように感じます。

今後は、このような取組が雇用にも結び付くことを期待しています。廃棄物処理の仕事は学生に馴染みがなく、苛酷な現場というイメージが強いため、私たちの業界では新卒採用が一番の課題となっています。それでも社会貢献という視点から、この業界に関心を持ってもらえるように努めています。

地域の企業と一緒に 環境負荷を削減

今、リサイクルに関するお問い合わせは、処理の難しいものが増えていきます。背景として、廃棄物そのもので選別や破碎処理の難しいものが増えているからだと感じています。

私たちはエンドユーザーであるお客様のところへ何度も通い、情報収集した上でどこまでリサイクルできるかを検討しています。リサイクルするにあたり、課題となる点をお伝えし、処理が可能な方法を探して提案します。コストが高くなる場合もありますが、お客様に付加価値を感じていただくことで、リサイクルの実現につながります。協力会社とも話し合いを重ねながら、お互いに歩み寄って、実現できる解決策を見出していきたいと思っています。

また、自社では技術開発にも力を入れています。2023年には川崎区の夜光に新しい工場をオープンしました。日本で初めての2段式の破碎機を導入し、さらなるリサイクル率の向上を目指しています。

廃棄物処理とは地域に根ざした仕事です。運搬の距離が長くなるほどコストがかかり、CO₂の排出量も増えます。環境への配慮という意味でも、“廃棄物処理は地場産業”だと考えています。川崎でずっとこの仕事に携わってきた私たちは、これからも地域の企業と一体となって環境負荷の削減に取り組んでいきます。

Message

SDGsを活用したい企業へメッセージ

ま

まずは自社の事業に関連することから取り組むと、従業員にも分かりやすく、成果も出やすいと思います。SDGsの取組は避けては通れない課題ですが、ビジネスとうまく両立させていくことが大切だと考えています。SDGsの理念だけが先行すると長くは続かず、社内の理解も得られにくいので、自社のビジネスと共存できるもの、両立できるものに取り組むことが良いのではないかと思います。



小学校や中学校において、リサイクルや環境保全についての授業を実施